

# ブラックロック・ グローバル・バランス・ファンド

追加型投信／内外／資産複合

## 交付運用報告書

第43期(2020年6月16日決算)

作成対象期間(2019年12月17日～2020年6月16日)

### 受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「ブラックロック・グローバル・バランス・ファンド」は、このたび、第43期決算を行ないました。

当ファンドは、内外の公社債を中心に株式にも分散投資するバランス運用により、リスクを低減しながら、円ベースでの信託財産の安定した成長を目指して運用を行ないました。当期につきましても、これに沿った運用を行ないました。

ここに、運用経過について、ご報告いたします。今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

### ブラックロック・ジャパン株式会社

〒100-8217 東京都千代田区丸の内一丁目8番3号

丸の内トラストタワー本館

運用報告書に関するお問合わせ先

電話番号:03-6703-4300

(受付時間 営業日の9:00～17:00)

ホームページアドレス

[www.blackrock.com/jp/](http://www.blackrock.com/jp/)

第43期末(2020年6月16日)

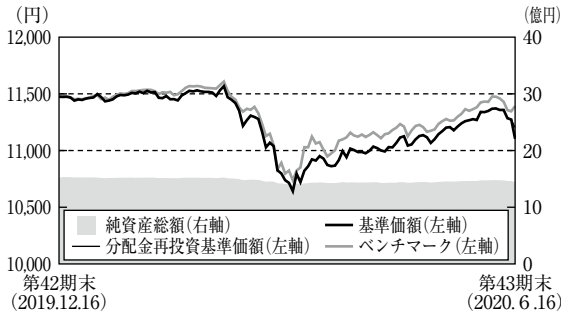
基準価額	11,103円
純資産総額	1,438百万円
騰落率	△2.4%
分配金	100円

(注) 騰落率は収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

- 当ファンドは、投資信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。右記弊社ホームページの「ファンド・ETF情報」、「投資信託」から当ファンドのファンド名を選択することにより、当ファンドの「運用報告書(全体版)」を閲覧およびダウンロードすることができます。
- 「運用報告書(全体版)」は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

◇運用経過

■当期中の基準価額等の推移について（第43期：2019年12月17日～2020年6月16日）



- \* 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- \* 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- \* ベンチマークは、複合インデックスです。詳細につきましては後記をご覧ください。
- \* 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、前期末の基準価額に合わせて指数化しています。

■基準価額の主な変動要因

当期、当ファンドの基準価額の騰落率は-2.4%となりました。当期、内外株式市場が下落しブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンドおよびブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・ロングホライズン・エクイティ・ファンドが下落したことが、当ファンドの基準価額の主な下落要因となりました。

■投資対象ファンドの当期間中の騰落率

組入ファンド	騰落率
ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)	1.6%
ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)	2.8%
日本債券マザーファンド	△ 0.5%
ブラックロックグローバルファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンド	△11.5%
ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・ロングホライズン・エクイティ・ファンド	△ 7.3%

\* ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・ロングホライズン・エクイティ・ファンドは米ドル建てであるため、米ドルベースの騰落率を記載しております。

■ 1万口当りの費用明細

項目	第43期		項目の概要
	(2019. 12. 17～2020. 6. 16)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	円	%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は11,236円です。 投信会社分は、委託した資金の運用の対価 販売会社分は、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(投信会社)	85	0.753	
(販売会社)	(42)	(0.374)	
(受託銀行)	(40)	(0.357)	
(b) 売買委託手数料	(2)	(0.022)	
(先物・オプション)	0	0.001	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有価証券取引税	(0)	(0.001)	
	-	-	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用	2	0.019	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保管費用)	(2)	(0.014)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(その他)	(1)	(0.005)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合計	87	0.773	

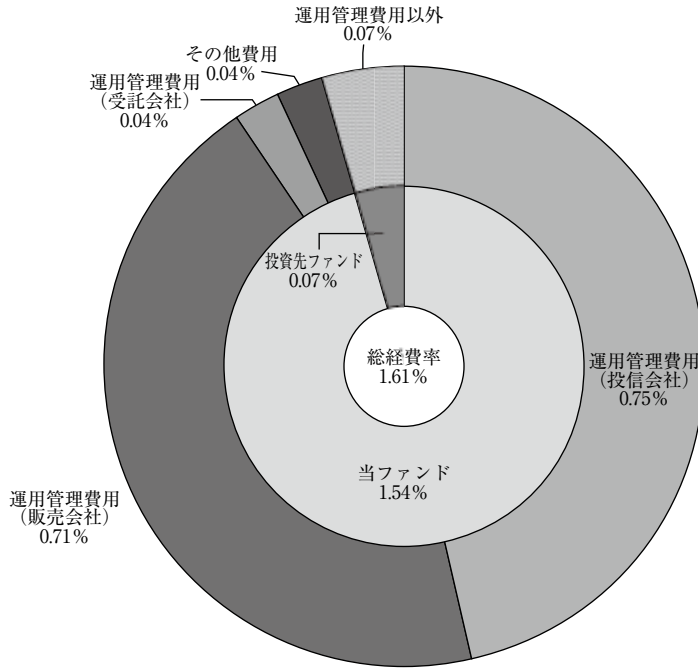
(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当りのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

■総経費率



※当期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は1.61%です。

総経費率(①+②+③)	1.61%
①当ファンドの費用の比率	1.54%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.00%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.07%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

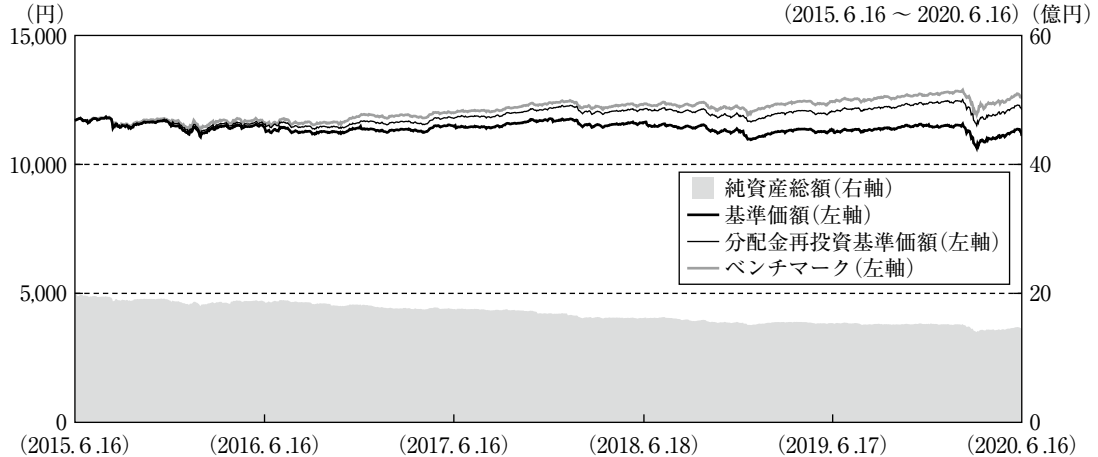
(注4) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■最近5年間の基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2015年6月16日の基準価額をもとに指数化したものです。

\* 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

\* 分配金を再投資するかどうかにについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

	2015年6月16日 期初	2016年6月16日 決算日	2017年6月16日 決算日	2018年6月18日 決算日	2019年6月17日 決算日	2020年6月16日 決算日
基準価額(分配前) (円)	11,709	11,367	11,413	11,546	11,235	11,103
期間分配金合計(税込み) (円)	-	200	200	200	200	200
分配金再投資基準価額の騰落率(%)	-	△ 1.2	2.2	2.9	△ 0.9	0.6
複合インデックス騰落率(%)	-	△ 0.8	3.5	2.6	0.7	1.8
純資産総額 (百万円)	1,969	1,858	1,744	1,609	1,524	1,438

\* ベンチマークは、複合インデックスです。

複合インデックスは、以下の指標をそれぞれの割合で合成した指数です。国内債券：NOMURA-BPI50%、外国債券：FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)10%、同インデックス(除く日本、円ヘッジ円ベース)10%、国内株式：TOPIX(東証株価指数)10%、外国株式：MSCIコクサイ指数(円換算ベース)10%、短期金融商品：無担保コール翌日物10%。

なお、ベンチマークを構成する指数は、各種金融機関等で公表されており、その機関等の知的財産です。またこれらの機関等は、当ファンドの運用成果等に関する一切の責任を負いません。

## 投資環境について

当期(2019年12月17日～2020年6月16日までの6ヶ月間)の投資環境は、米中通商交渉や英国の欧州連合(EU)離脱問題などへの懸念が後退したことで、リスク資産が買われる展開で始まりました。1月中旬以降は、中国発の新型コロナウイルスの世界的な感染拡大、および、その世界経済に及ぼす影響への警戒感が高まり、ボラティリティが上昇し、株式を始め幅広いリスク資産が大幅な調整となりました。3月後半以降、主要国が相次いで打ち出したかつてない規模の金融・財政政策が好感されたほか、移動制限の緩和による経済活動の再開や新型コロナウイルスに対するワクチンや治療法への期待感から、市場の楽観が強まりました。このような状況下、株式市場は大幅に反発した後、上昇基調を維持したまま期末を迎えました。債券市場は、期の前半は、新型コロナウイルスへの感染拡大や景気減速懸念から利回りの低下(価格は上昇)傾向が続いたものの、3月中旬以降、主要国の大規模な財政政策をうけて利回りが上昇に転じ、その後は期末までレンジ相場で推移しました。

### <内外株式市場動向>

株式市場は、米国S & P 500種株価指数が前期末の3191.45から当期末に3124.74へ、また、東証株価指数(TOPIX)は前期末の1736.87から当期末に1593.45へ下落しました。

### <内外債券・為替市場動向>

債券市場では、日本10年国債利回りは、前期末の-0.01%から+0.02%とほぼ横ばい推移となりました。米国10年国債利回りは、前期末の+1.87%から当期末には+0.75%へと低下しました。またドイツ10年国債利回りは、-0.28%から当期末には-0.43%へと低下しました。

為替市場では、ドル/円は前期末の109.43円から当期末は107.32円と円高ドル安、ユーロ/円は前期末の121.74円から当期末は121.63円へと円高ユーロ安となりました。

## ポートフォリオについて

### <当ファンド>

投資環境を反映し各資産のベンチマーク・リターンは国内債券が-0.73%、国内株式が-8.26%、外国

債券ヘッジ付きが+4.39%、同ヘッジなしが+2.94%、外国株式が-7.87%となりました。当ファンドの資産配分においてはほぼ中立での運用を行ないました。

投資先ファンドにおける運用経過は以下の通りです。

### <日本債券マザーファンド>

中期ゾーンを中心とするロールダウン効果(イールド・カーブの傾斜に沿って利回りが下がり、債券価格が上昇すること)の魅力に乏しいカーブ形状や、カーブ全体にスティープ化余地大との見方等を背景に、イールド・カーブに関しては、スティープ化ポジションは維持しつつ、ポジションの調整を行ないました。具体的には、2年、10年のオーバーウェイトおよび10-40年のスティープ化ポジションを中心とするポジションとしていましたが、10年のオーバーウェイト、10-40年のスティープ化ポジションを中心とする残存期間構成へ調整を行ないました。ポートフォリオのデュレーションについては、小幅のオーバーウェイトから概ね中立に変更しました。セクター配分については、引き続き政府保証債および地方債のアンダーウェイト、国債のオーバーウェイトを維持しました。事業債、金融債、円建外債などの信用リスクを伴う債券に関しては、日銀の社債買入れの影響や投資家によるプラス利回りへの選好などを背景として国内事業債を中心にスプレッド水準が必ずしも魅力的でないことなどから、デュレーション調整後で概ね中立から小幅アンダーウェイトを維持しました。

### <ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし/為替ヘッジあり)>

デュレーション戦略に関しては、新型コロナウイルスによる影響が世界中に拡大した中、ポートフォリオ全体のデュレーションをオーバーウェイトとしました。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、先進国中銀は相次いで利下げを実施しました。こうした環境下、米ドル圏ではデュレーションのオーバーウェイトを基本としつつ、機動的な調整を行ないました。期初から4月末にかけて、新型コロナウイルスによる影響が予想をはるかに上回るペースで拡大したことから、リスク資産に対するヘッジとして、デュレー

ションのオーバーウェイトを拡大しました。特に3月を通して、市場のリスクセンチメントや流動性が急激に悪化したことから、米連邦準備制度理事会(FRB)をはじめとする先進国中銀は前例のない規模の支援策を打ち出しました。こうした緩和策の一環として、FRBは政策金利をゼロ近辺に引き下げ、米国金利は4月から低位なレンジ内で推移しました。従って、米国の短期金利が更に低下する余地は限定的と考え、ポートフォリオ全体のデュレーションを中立に引き下げました。また、5月からは財政拡大に伴う国債増発が見られ、バリュエーションや需給の観点から米国金利は若干割高と評価し、デュレーションを小幅なアンダーウェイトに変更しました。

ユーロ圏については、新型コロナウイルスによる影響が世界中に拡大する環境下、デュレーションのオーバーウェイトを維持しました。欧州中央銀行(ECB)による資産買入は欧州市場の下支え要因になると見込み、イタリアやスペインをはじめとする周辺国を中心にデュレーションをオーバーウェイトとしました。ECBは3月に追加の資産買入やパンデミック緊急プログラム(PEPP)を発表しました。ECBは市場を支援するため強固なコミットメント姿勢を示していることから、特に周辺国の対独スプレッドは今後縮小する可能性が高いと考え、周辺国におけるデュレーションのオーバーウェイトを維持しました。

セクター配分戦略に関しては、米国および欧州の投資適格社債への配分を維持しました。スプレッドは企業の業績や財務状況の悪化を織り込む形で急ピッチに拡大したものの、その後、FRBやECBによる一連の支援策が打ち出されたことから、機動的に社債への配分を小幅拡大しました。

パフォーマンスについては、当期を通して先進国金利が低下したことから、米国と欧州デュレーションのオーバーウェイトはプラスに寄与しました。一方で、3月からスプレッドが大幅に拡大したことにより、CMB SやA B S等といった証券化商品への配分や米国及び欧州の投資適格社債への配分がマイナスに寄与しました。

<ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・ロングホライズン・エクイティ・ファンド>

当期、家庭用品や食品を中心とした生活必需品セクターにおける銘柄選択がパフォーマンスのプラス

要因となりました。また、一般消費財セクターの銘柄選択および当期相対的に低調なパフォーマンスとなったエネルギーセクターの非保有もプラスに寄与しました。一方で、情報技術セクターの銘柄選択がパフォーマンスのマイナス要因となりました。また、ヘルスケアセクターおよび金融セクターの銘柄選択もマイナス要因となりました。

当期、主な投資行動としては、新型コロナウイルスが世界的な感染拡大となる中、ポートフォリオをディフェンシブ方向に調整し、金融セクターの組入れを大幅に引き下げました。また、ヘルスケア、資本財・サービスセクターの組入れを引き下げました。一方で、生活必需品セクターの組入れを引き上げるとともにキャッシュの割合を増やしました。期の後半には、新型コロナウイルス関連で上昇した銘柄の利益を確定し生活必需品セクターのポジションをやや縮小した一方で、資本財・サービスセクターの組入れを引き上げました。地域別では、米国の組入れを引き上げた一方で、欧州(英国を除く)、ラテンアメリカの組入れを引き下げました。

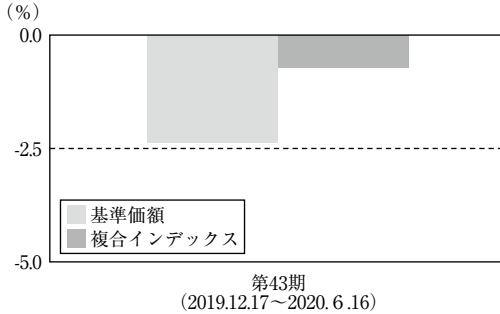
<ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンド>

当期の国内株式市場は、米中貿易摩擦が小休止し今後の世界経済の回復が期待された中、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて大きく値を崩しました。その後は、世界各国や中央銀行による金融・財政政策が支えとなった他、新規患者数増加ペースが鈍化したことやこれに伴う経済活動再開への期待等から値を戻したものの、前期末対比では下落となりました。このような環境下で、当初想定ほどの業績成長には至らないと判断したインターネットサービス会社等を売却した一方で、今後の業績改善を期待した重電メーカー等を購入しました。また、外出自粛要請緩和後の業績回復期待が高まった回転寿司チェーンなどがパフォーマンスに貢献した一方で、主要顧客の業績悪化が警戒された製造業向け人材派遣会社などがパフォーマンスにマイナスの影響を与えました。

ベンチマークとの差異について

当期、当ファンドの基準価額の騰落率は-2.4%となり、ベンチマークである複合インデックスは-0.7%となりました。

## 【基準価額とベンチマークの対比(期別騰落率)】



## 分配金について

収益分配は基準価額水準、市場動向等を勘案して、1万口あたり100円とさせていただきます。留保益の運用につきましては、運用の基本方針に基づき運用を行いません。

## ■分配原資の内訳(1万口当り)

項目	当期 2019年12月17日 ~2020年6月16日
当期分配金(税込み)	100円
対基準価額比率	0.89%
当期の収益	-円
当期の収益以外	100
翌期繰越分配対象額	1,844

- (注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売却等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
- (注2) 円未満は切り捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。
- (注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

## 今後の運用方針について

### <内外株式市場に関する市場見通し>

国内経済については、移動制限解除後の感染動向次第では消費活動の停滞が見込まれ、民間消費支出の回復時期については不透明な状況が払しょくされていません。米国および日本の内需の低迷により、日本の経済成長および企業業績が米国以上に深刻化する可能性もあるとみられます。一方で、株式市場はこうした見通しに逆行する形で上昇基調が続いており、悪材料は既に織り込まれたような展開が続いています。

す。今後は、企業業績の下方修正に伴い、割高な水準にある株価の下方修正も想定されます。

外国株式市場については、これまで米国株式市場のけん引役となってきた、時価総額上位のテクノロジー銘柄がアンダーパフォーマンスに転ずることで、これまでの上昇モメンタムは次第に低下すると予想されます。また、米中の覇権争いが激化した場合、経済成長や企業業績の見通しに影響を及ぼすとみられ、株式市場の押し下げ要因となると想定されます。そのほか、経済活動の再開に伴う感染拡大の第2波、米国の反人種差別デモや米国大統領選挙、欧州では財政支援を目的とする復興基金の合意の行方などが、リスク要因として注視されます。

### <内外債券・為替市場に関する市場見通し>

国内債券市場は、大幅な国債増発にも拘わらず、日本銀行がイールドカーブ・コントロール政策の下、買い入れを継続していることから、国債利回りは低位でのレンジ形成が続く可能性が高いとみられます。新型コロナウイルスの感染拡大および内外の金融・財政面での政策対応が、国内経済及び国債市場に及ぼす影響に注視していきます。

先進国債券市場は、米国については、大規模な経済対策観測などから、金利上昇への警戒感が高まる局面も予想される一方、景気回復を確実なものにするためにも、ゼロ以下の実質金利を継続させる必要があり、FRBは10年金利が1%を大きく上回っていくような場合には緩和策を強化すると見込まれます。欧州については、引き続き、金融・財政政策の効果や、需給環境の変化が債券市場に及ぼす影響に注視する必要があると考えます。

### <今後の当ファンド資産配分戦略予定>

前述の見通しに従って、全資産をベンチマークに対して概ね中立として運用する方針です。

投資先ファンドにおける今後の運用方針は以下の通りです。

### <日本債券マザーファンド>

ポートフォリオ属性に関しては、中期ゾーンを中心とする下に凸のカーブ形状やカーブ全体にス



ティープ化余地大との見方等を背景に、10年のオーバーウェイト、10-40年のスティープ化ポジションを中心とする残存期間構成を維持します。ポートフォリオのデュレーションについては、ベンチマーク対比概ね中立とします。セクター配分については、基本的に流動性の違いによるプレミアムがスプレッドの源泉という性格等を踏まえ政府保証債および地方債のアンダーウェイト、国債のオーバーウェイトを維持します。信用リスクを伴う債券のセクターウェイトについては、国内発行体の中長期かつ広範なクレジット悪化局面とは考えないものの、日銀の社債買い入れの影響やプラス利回りへの選好等から国内事業債を中心にスプレッド水準が必ずしも魅力的でないこと等を鑑み、事業債、金融債、円建外債については中立〜小幅アンダーウェイトとする方針です。

#### <ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし/為替ヘッジあり)>

グローバル経済は、新型コロナウイルスによる経済停滞の影響により景気後退局面に短期的に陥ると想定しているものの、大規模な金融・財政政策を背景に、緩やかな成長に回帰する可能性が高いと考えています。ただし、新型コロナウイルスの感染拡大規模や収束までの期間は想定が難しく、実態経済への影響を含め、注視する必要があると考えています。加えて、米中対立、米国の選挙、英国のEU離脱問題等といった一連のリスク要因には引き続き十分に留意する方針です。

米金利については、FRBによる利下げや緩和策の拡大により金利水準は過去と比べて低水準に留まると想定しています。ポートフォリオにおけるリスク資産に対するヘッジとして依然有効と考えるものの、バリュエーションについては割高であり、機動的な対応が必要と考えています。

ユーロ圏については、ECBの買入による需給への影響および英EU離脱交渉を巡る進捗に注視しつつ、イタリアやスペイン等をはじめとする周辺国を愛好します。

セクター配分戦略については、新型コロナウイルスの影響を考慮した上で、銘柄選択に一層注力する方針です。クレジットクオリティ、業界リスク、景気循環性等に注目してポジションを慎重に構築します。

#### <ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・ロングホライズン・エクイティ・ファンド>

長期的に世界の株式市場は債券のリターンを上回ると見えています。とはいえ、コロナウイルスの影響および対応策を考えると、今後18か月における成長見通しは極めて不透明です。コロナウイルスに対して必要な施策をとることは、経済活動の大幅な減速を意味しています。大規模な政策対応が世界で取られており、財政と金融の両面でセーフティネットを提供していますが、イベントや旅行といった一部のセクターは2021年を通して影響を受ける可能性もあります。

より長期的には、経済は成長へと回帰すると思われませんが、人口動態の逆風、低い生産性および高水準の債務の影響を受けて経済成長は低水準で、不安定なものとなると見えています。こうした見通しから、財務状況が良好で、マクロ経済環境にかかわらず、高い収益率で良好な成長を実現できる企業がパフォーマンスを上げられると考えています。

#### <ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンド>

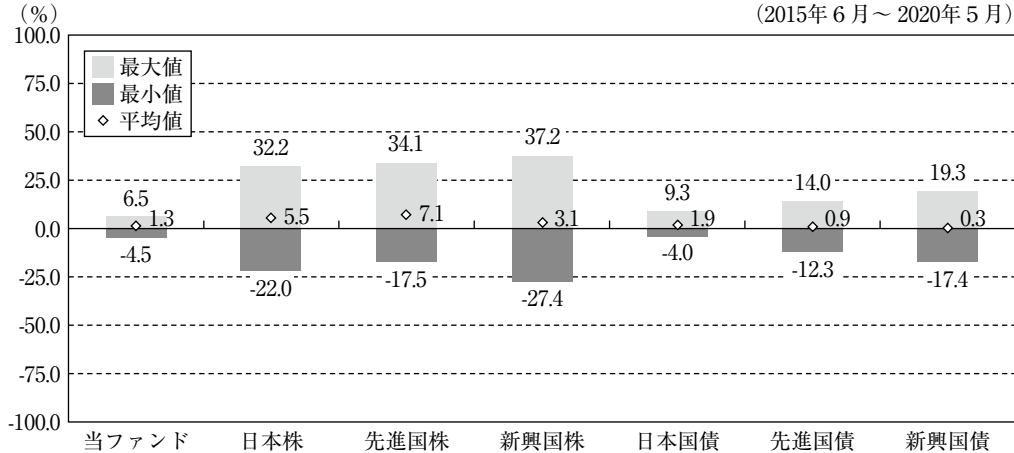
世界各国や中央銀行による金融・財政政策が資本市場を下支えすることが想定されるものの、一段の株価上昇には企業業績回復に対する投資家の確信度が高まることなどが重要だと思われます。また、世界の株式市場は今後の相応の回復を織り込んで来ているとも考えられ、特に市場参加者の「期待」と実体経済の「現実」がどのように収斂していくかが注目されます。一方で、特に投資家の注目度が低い中・小型株式市場は、潜在的な利益成長の可能性があるにもかかわらず、低位なバリュエーション水準に放置されている企業が散見される他、独自の成長を続けている企業も多く、依然として魅力的な投資対象であると考えています。引き続き、従来の価値観にとらわれることなく、産業構造や個別企業の「変化」にいち早く着目し、未だ市場において認識されていない高い成長の可能性がある銘柄を積極的に組み入れていきたいと考えています。

## ◇当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	無期限(設定日:1998年12月1日)	
運用方針	投資対象ファンドへの投資を通じて、内外の公社債を中心に株式にも分散投資するバランス運用によりリスクを低減しながら、円ベースでの信託財産の安定した成長を目指します。	
主要投資対象	投資対象ファンドは、別に定めるブラックロック・グループの運用会社が運用する投資信託証券で、原則としてアクティブ運用により付加価値を追求する投資信託証券から選定します。	
	証券投資信託 (親投資信託)	<p>【日本債券マザーファンド】 日本の公社債</p> <p>【ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)】 日本を含む世界先進主要国の公社債。外貨建資産については為替ヘッジを行いませんが、一部機動的な運用を行なう場合があります。</p> <p>【ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)】 日本を含む世界先進主要国の公社債。外貨建資産については為替ヘッジを行いませんが、一部機動的な運用を行なう場合があります。</p> <p>【日本株式マザーファンド】 日本の株式</p>
	ルクセンブルグ籍 外国投資証券	<p>【ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・フレキシブル・エクイティ・ファンド】 日本の株式</p> <p>【ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンド】 日本の株式</p> <p>【ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・ロングホライズン・エクイティ・ファンド】 日本を含む世界各国の株式</p>
運用方法	<p>①投資対象ファンドへの投資を通じて、内外の公社債を中心に株式にも分散投資するバランス運用により、リスクを低減しながら、円ベースでの信託財産の安定した成長を目指します。資産配分については、定期的に見直しを行いません。</p> <p>②ファンド・オブ・ファンズ形式による運用を行いません。</p> <p>③外貨建資産については、為替ヘッジによるリスクの低減を図ります。為替ヘッジ(親投資信託における為替ヘッジならびに投資対象ファンドにおいて円に対する為替ヘッジが行なわれている場合はこれを含みます)を行なわない部分を信託財産の純資産総額の原則として30%程度までとします。</p>	
分配方針	<p>年2回の毎決算時(6月16日、12月16日。休業日の場合は翌営業日)に、原則として以下の方針に基づき、分配を行います。</p> <p>■分配対象額の範囲は、繰越分を含めた利子・配当収入と売買損益(評価損益も含みます。)等の全額とすることができます。</p> <p>■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。基準価額水準、市況動向等によっては分配を行なわないことがあります。将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p> <p>■留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。</p>	

(参考情報)

◇代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

\*上記は、2015年6月～2020年5月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

\*上記の騰落率は直近月末から60ヵ月遡った算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

\*当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

\*各資産クラスの指数

日本株・・・TOPIX(東証株価指数、配当込み)

先進国株・・・MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)

新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)

日本国債・・・NOMURA-BPI国債

先進国債・・・FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

新興国債・・・J.P.モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)

<各指数について>

東証株価指数(配当込み)は、東京証券取引所第一部に上場されている全銘柄を対象に時価総額を指数として算出したものです。東証株価指数(配当込み)は、株式会社東京証券取引所((株)東京証券取引所)の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は、(株)東京証券取引所が有しています。(株)東京証券取引所は、東証株価指数(配当込み)の算出もしくは公表の方法の変更、東証株価指数(配当込み)の算出もしくは公表の停止または東証株価指数(配当込み)の商標の変更もしくは使用の停止を行なう権利を有しています。MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)およびMSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は、MSCI Inc.が開発、計算した株価指数です。MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)は日本を除く世界の主要先進国の株式を、また、MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は新興国の株式を対象として算出した指数です。同指数に関する著作権、知的財産その他の一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。

NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表している指数で、日本国債の市場全体の動向を表す投資収益指数です。同指数に関する知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、NOMURA-BPI国債の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、NOMURA-BPI国債を用いて行なわれるブラックロック・ジャパン株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

J.P.モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)は、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが発表しており、新興国の現地通貨建ての国債を対象として算出した指数です。同指数に関する著作権はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属しています。

◇ファンドデータ

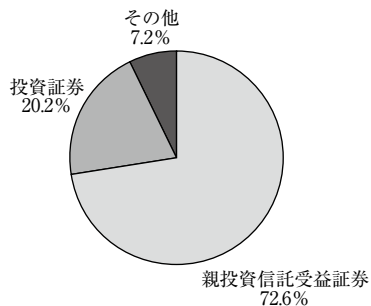
■当ファンドの組入資産の内容

○組入ファンド等

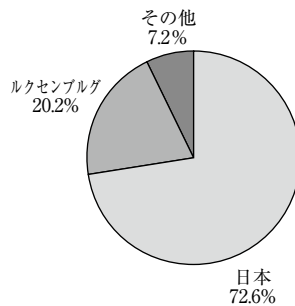
	比率
日本債券マザーファンド	44.5%
ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)	14.1
ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)	14.0
ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・ロングホライズン・エクイティ・ファンド	11.2
ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンド	9.0
その他	7.2

(注) 比率は第43期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

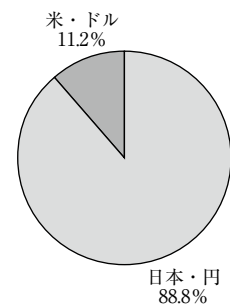
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は第43期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

■純資産等

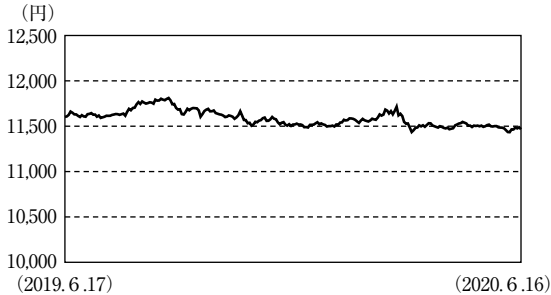
項目	当期末	
	2020年6月16日	
純資産総額	1,438,932,152円	
受益権総口数	1,296,004,686口	
1万口当り基準価額	11,103円	

\*当期中における追加設定元本額は35,174,115円、同解約元本額は64,407,290円です。

■組入ファンドの概要

◆日本債券マザーファンド

○基準価額の推移



○上位10銘柄

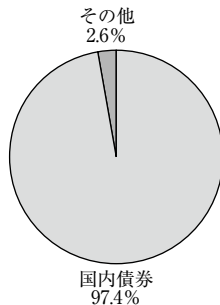
銘柄名	通貨	比率
354 10年国債	日本・円	39.5%
413 2年国債	日本・円	11.5
151 20年国債	日本・円	9.1
24 30年国債	日本・円	7.7
166 20年国債	日本・円	4.9
62 30年国債	日本・円	4.6
46 30年国債	日本・円	4.3
17 道路機構	日本・円	2.6
49 クレディセゾン	日本・円	1.2
11三菱UFJ信託BK	日本・円	1.2
組入銘柄数	20銘柄	

○1万口当りの費用明細

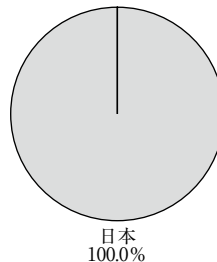
(2019.6.18~2020.6.16)

項目	当期
	円
(a) 売買委託手数料	-
(b) 有価証券取引税	-
(c) その他費用 (その他)	0 (0)
合計	0

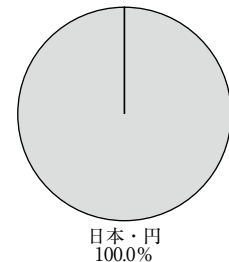
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

(注2) 1万口当りの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については2ページ(1万口当りの費用明細の項目の概要)をご参照ください。

(注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

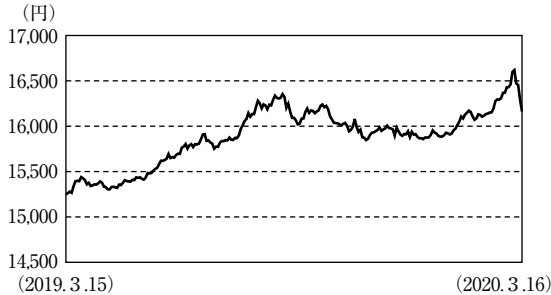
(注4) 通貨別配分のデータは実質為替組入比率を記載しております。

(注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

\*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

◆ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)

○基準価額の推移



○上位10銘柄

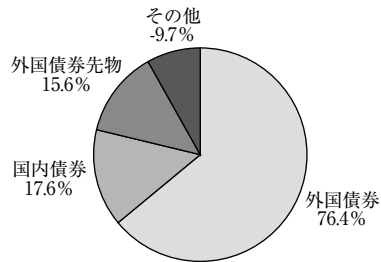
銘柄名	通貨	比率
TSY INFL IX N/B 0.5% 2024/04/15	米・ドル	6.7%
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 1.25% 2022/02/28	米・ドル	3.2
130 20年国債	日本・円	3.1
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 1.5% 2021/10/31	米・ドル	2.3
ITALY BUONI POLIENNALI DEL TESORO 1.75% 2024/07/01	ユーロ	1.9
FRENCH REPUBLIC GOVERNMENT BOND OAT 0% 2025/03/25	ユーロ	1.9
UMBS 30YR TBA (REG A) 3.5% 2020/04/15	米・ドル	1.8
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 1.5% 2020/06/15	米・ドル	1.7
BUNDESobligation 0% 2023/10/13	ユーロ	1.7
ITALY BUONI POLIENNALI DEL TESORO 1.25% 2026/12/01	ユーロ	1.6
組入銘柄数		378銘柄

○1万口当りの費用明細

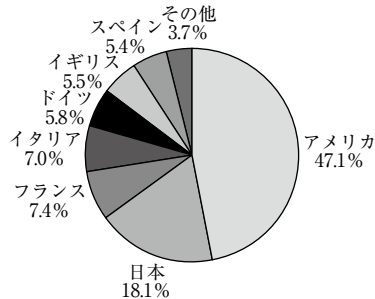
(2019.3.16~2020.3.16)

項目	当期
(a) 売買委託手数料 (先物・オプション)	1円 (1)
(b) 有価証券取引税	-
(c) その他費用 (保管費用)	10 (10)
(その他)	(0)
合計	12

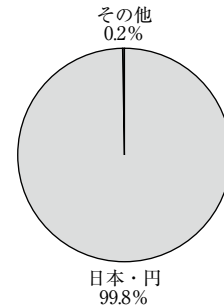
○資産別配分



○国別配分



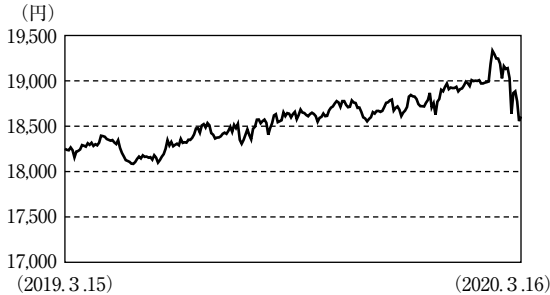
○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。  
 (注2) 1万口当りの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については2ページ(1万口当りの費用明細の項目の概要)をご参照ください。  
 (注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。  
 (注4) 通貨別配分のデータは実質為替組入比率を記載しております。  
 (注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。  
 \*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

◆ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)

○基準価額の推移



○上位10銘柄

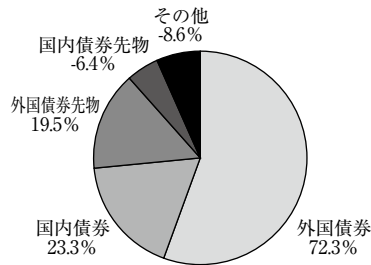
銘柄名	通貨	比率
TSY INFL IX N/B 0.5% 2024/04/15	米・ドル	6.9%
130 20年国債	日本・円	6.4
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 1.125% 2022/02/28	米・ドル	3.1
339 10年国債	日本・円	2.8
ITALY BUONI POLIENNALI DEL TESORO 1.75% 2024/07/01	ユーロ	2.3
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 1.5% 2021/10/31	米・ドル	2.1
FRENCH REPUBLIC GOVERNMENT BOND OAT 0% 2024/03/25	ユーロ	2.1
UMBS 30YR TBA (REG A) 3.5% 2020/04/15	米・ドル	2.0
406 2年国債	日本・円	2.0
54 30年国債	日本・円	1.6
組入銘柄数	310銘柄	

○1万口当りの費用明細

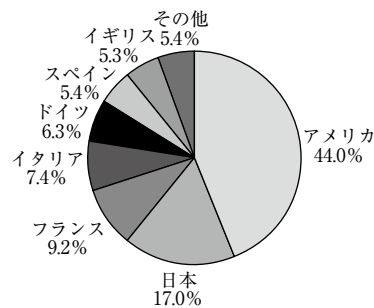
(2019.3.16~2020.3.16)

項目	当期
(a) 売買委託手数料 (先物・オプション)	2円 (2)
(b) 有価証券取引税	-
(c) その他費用 (保管費用) (その他)	14 (14) (0)
合計	16

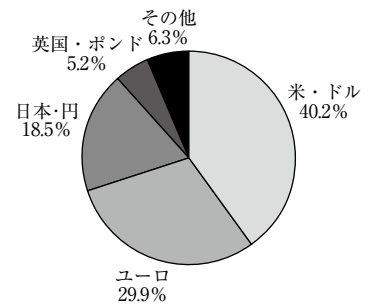
○資産別配分



○国別配分



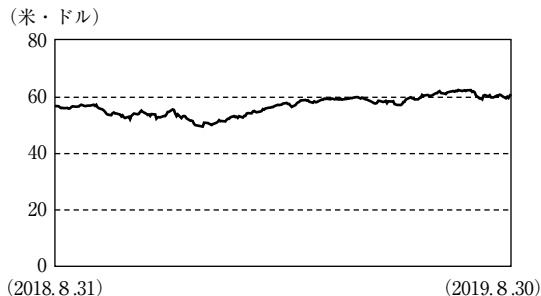
○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。  
 (注2) 1万口当りの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については2ページ(1万口当りの費用明細の項目の概要)をご参照ください。  
 (注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。  
 (注4) 通貨別配分のデータは実質為替組入比率を記載しております。  
 (注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。  
 \*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

◆ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・ロングホライズン・エクイティ・ファンド

○基準価額の推移



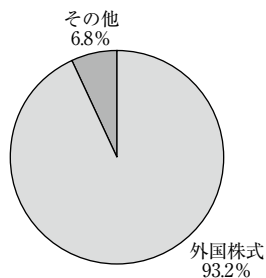
○上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
NESTLE SA	スイス・フラン	5.9%
UNITEDHEALTH GROUP INC	米・ドル	5.6
COMCAST CORP CLASS A	米・ドル	5.5
BOSTON SCIENTIFIC CORP	米・ドル	4.9
MASTERCARD INC CLASS A	米・ドル	4.6
ALPHABET INC CLASS C	米・ドル	4.1
THERMO FISHER SCIENTIFIC INC	米・ドル	4.1
SONY CORP	日本・円	4.0
ASSA ABLOY B	スウェーデン・クローナ	3.9
INTUIT INC	米・ドル	3.8
組入銘柄数	28銘柄	

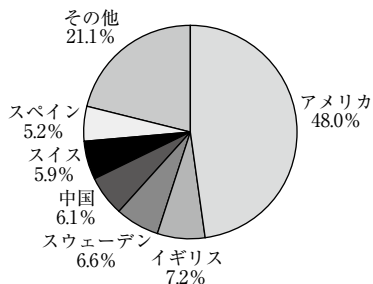
○1万口当りの費用の明細

当該情報の取得が不可能であるため記載しておりません。

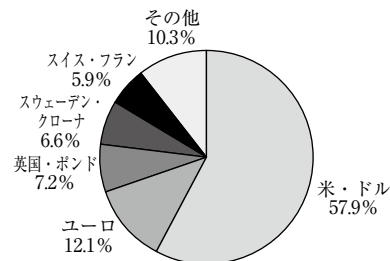
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注3) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

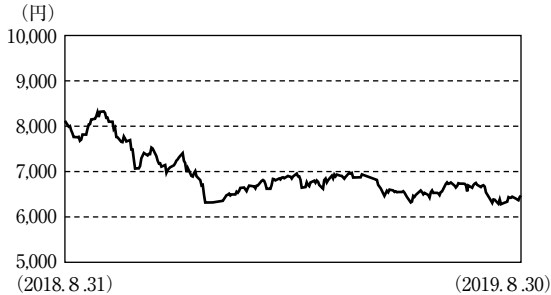
\* 当社適時開示資料作成にあたり使用しておりますブラックロック・グループのデータに基づき記載しております。上記ファンドの管理会社が作成しているデータに基づく運用報告書(全体版)の参考情報と相違する場合があります。

\* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。



◆ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンド

○基準価額の推移



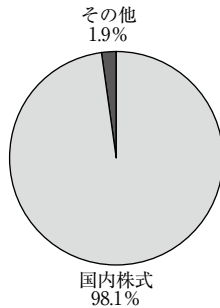
○上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
京成電鉄	日本・円	2.4%
スクウェア・エニックス・HD	日本・円	2.3
日本新薬	日本・円	2.0
伊藤忠テクノソリューションズ	日本・円	2.0
りらいあコミュニケーションズ	日本・円	1.9
シッパヘルスケアHD	日本・円	1.9
イオンデイライト	日本・円	1.8
熊谷組	日本・円	1.8
ニチレイ	日本・円	1.7
ふくおかフィナンシャルG	日本・円	1.7
組入銘柄数	91銘柄	

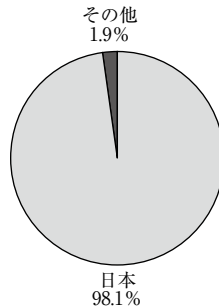
○1万口当りの費用の明細

当該情報の取得が不可能であるため記載しておりません。

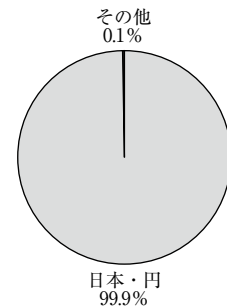
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注3) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

\* 当社適時開示資料作成にあたり使用しておりますブラックロック・グループのデータに基づき記載しております。上記ファンドの管理会社が作成しているデータに基づく運用報告書(全体版)の参考情報と相違する場合があります。

\* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。